

肝属郡医師会立病院再整備計画 介護老人保健施設みなみかぜ 移転に関する検討について

2021/10/28

(公社) 肝属郡医師会
介護老人保健施設みなみかぜ

基本構想より

- 「肝属郡医師会立病院 施設再整備に向けた基本構想」（以下「基本構想」という）にて、2021年3月に以下の内容が基本方針として策定されたところである。

- 介護老人保健施設の新病院移転に伴う方針として、新病院の移転にあたっては、地域包括ケアシステム構築における当院の役割を再認識し、今後の増加が見込まれる介護福祉需要へ対応するため、介護老人保健施設の整備を検討する。

施設は、医療・介護の融合型施設づくりとしての併設施設とし、当院にとっての医療から介護病棟への一部転換方針に沿う位置づけとする。これにより、地域における医療・介護基盤の整備に資することとし、施設系介護サービスに加え、特に在宅医療提供体制の充実に努める。

具体的な施設整備については、地域における必要な介護サービスや人口動態などを踏まえ、適正な規模・内容を検討する。

（基本構想：57頁）

- 新病院の施設形状として、新病院の計画施設については、介護老人保健施設を一体型とした病院としての複合施設とするか、介護老人保健施設を別棟として建設する現状同様の施設とするか、検討が必要となる。

一体化した複合施設とするとスタッフエリアやリハビリテーション等を、病院と介護老人保健施設で兼用して使用できる面積もでき、全体としては施設面積を抑えることが可能になると考えられる。

そのため、病院と介護老人保健施設の複合施設として、一体型の施設形状を検討する。新病院の移転にあたっては、地域包括ケアシステム構築における当院の役割を再認識し、今後の在宅医療支援などの増加が見込まれる介護保険需要へ対応するため、介護老人保健施設の整備を検討する。

（基本構想：65頁）

介護需要予測の検討

■ 入所（短期入所を含む）の介護需要予測

- 現状の介護認定者の認定区分ごとに認定率と人口推移予測を掛け合わせ算出した。
- その結果、2020年から2035年にかけて要支援・介護支援認定者数が、約25%減少とされている。令和元年度実績の1日平均入所者数65名（短期入所含む）であるため、2035年は約25%減の48名と予測される。

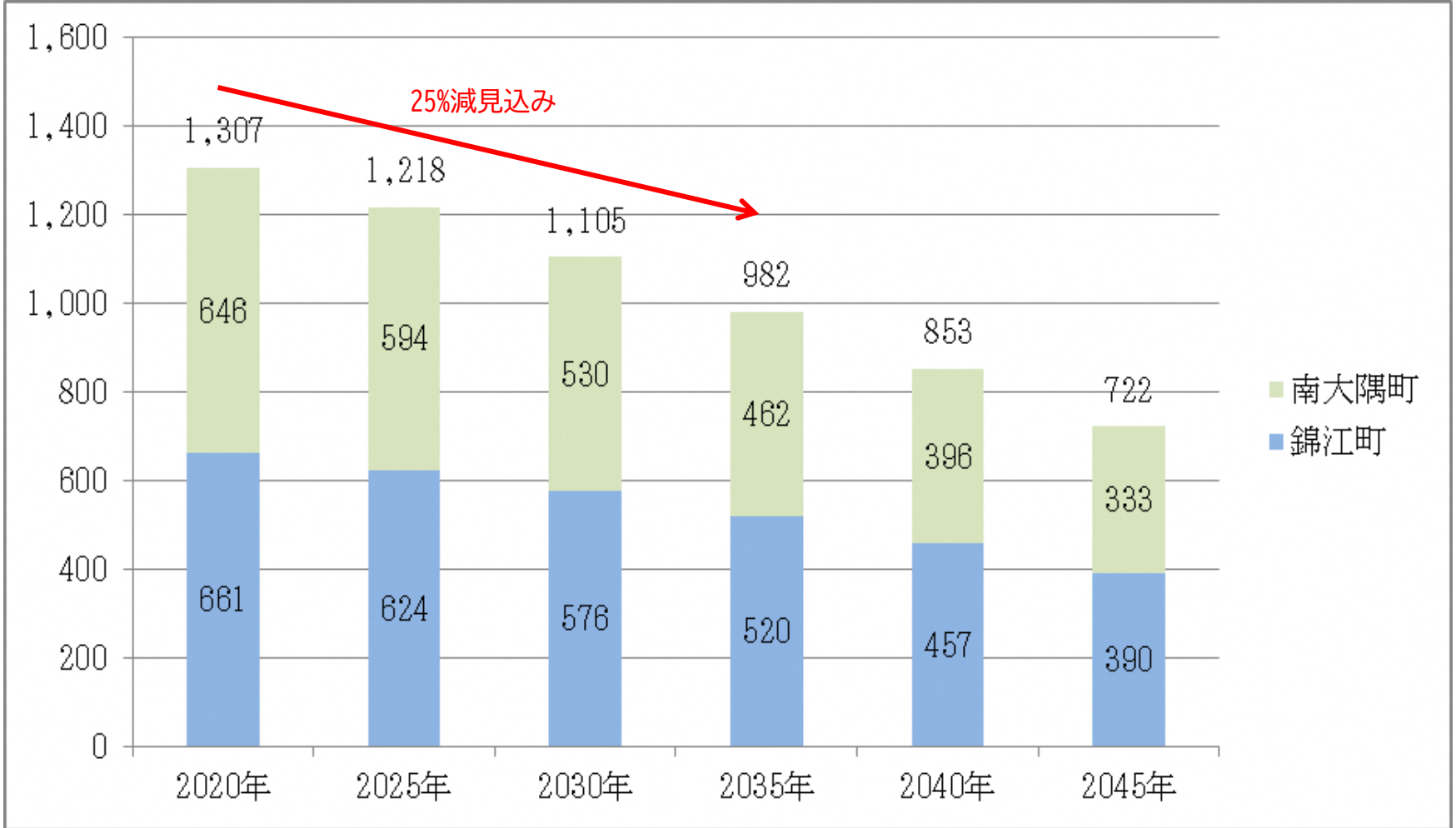
■ 通所（デイケア）の介護需要予測

- 通所リハビリテーション（デイケア）については、要介護認定者が対象ですが、現状の利用状況は要支援者も多く含まれているために、要支援者、要介護者含めての需要予測となっている。（入所介護需要予測と同じ結果になる。）
- その為、2020年から2035年にかけて要支援・要介護認定者数が、約25%減少とされている。令和元年度実績の1日平均利用者数32名であるため、2035年は約25%減の24名と予測される。

現状の利用者から、医療と同様に対象とする介護認定区分ごとに認定率と人口推移予測を掛け合わせ算出した。こちらはあくまでも予測です。今後の施設の基本方針で利用者数は変わってきます。

【資料①】 介護需要予測の検討

■ 要介護・要支援者数の推移（南大隅町・錦江町）



（出典）介護保険事業状況報告、国立社会保障人口問題研究所（平成30（2018年推計）
 推計方法：将来推計人口（65歳以上）×認定率で要介護・要支援認定者数を算出する。
 認定率の求め方は、要介護・要支援認定者数（第1号被保険者）÷第1号被保険者

事業収支の検討

■ 前提条件

- 人数については、介護需要予測より以下の通り設定した。
 - 入所：51名（定床：55床 稼働率93%）（入所48名、短期入所3名）
 - 通所：25名（定員：40名）
- 現行の加算型と在宅強化型の2パターンで試算した。

■ 事業収支試算の結果

- 費用面は施設の規模や今後の情勢等により大きく影響を受ける可能性があるが、現時点においての試算では、マイナスとなる結果となった。

病院機能との検討

■ 入所する利用者の検討

- 病院にて、回復期病床（地域包括ケア病棟）や慢性期病床を運用する場合、介護老人保健施設へ入所する利用者像と類似する事が予想される。
- 長期的な施設運営を見据えた場合に、同様の機能を有する病床を設けることは、今後の経営が非常に厳しくなることが予想される。

○ 患者・利用者の流れ（概略）

